

せめぎあう眼差し——— 相関する地域を読み解く———

日時:2015年4月25日(土) 13時30分~18時00分

場所:稲盛財団記念館 大会議室(3階・333号室)

趣旨



インターネットが爆発的に普及した現在では、世界を知ることはかつてなく容易になった。検索さえすれば、一瞬で大量の情報を得られる。だが、そこには様々な見方が含まれている。中には誤解や偏見に満ちた情報もあるだろう。私たちは、何でも知り、自由に発言できるようでいて、実際には、一面的な情報に依拠したり発信したりする度合いが増えているだけなのかもしれない。情報量の増大が、相互の理解ではなく対立を煽っているとすれば、それは大いなるパラドックスである。

とすれば、地域を理解し、社会を理解するとは一体何だろうか。言うまでもないことだが、私たちは神の視点に立って他者を見ているわけではない。個人と個人の間であれば、両者は具体的な関係性の中でお互いを理解していく(或いは、理解したと認識する)。集団間においては、それが更に多層的となる。職場や学校、自治体などのレベルから、国家や宗教、ヨーロッパやアジアといった地域のレベルにおいても、人々は関係性の網の目の中で他者を理解する。

つまり、地域や社会を読み解くとは、厳密に言えば対象そのものを読み解くことではない。それは、関係性の網の目に囚われた自己と他者を意識しつつ、「私たち」と「彼ら/彼女ら」の眼差しを読み解く試みである。ただし、「私たち」と「彼ら/彼女ら」という区分そのものも、実際には相対的である。或る現象を単純に欧米とイスラムの対立と表現したとき、中間的立場の存在は捨象されてしまう。極端な場合、人々はどちらかの陣営につくことを迫られる危険性すらある。

本ワークショップでは、誰が何をどのように見ているのか、すなわち、眼差しがせめぎあう具体的な現場を題材にして、社会や経済、国際政治、文化の側面から、相関する地域を読み解くことを目的とする。当然のことながら、関係性の網の目は複雑であり、かつ動的である。ここでは、自己と他者の相対性に留意しつつ、世界の各地域へと迫っていきたい。

プログラム

13:30~13:40	はじめに(原 正一郎・地域研 センター長)
13:40~13:55	趣旨説明(福田 宏・地域研)
13:55~14:30	アメリカの核戦略と放射能汚染の「地球的思考」 樋口 敏広(京都大学白眉センター)
14:30~15:05	ドヴォジャークの「辺境」とチェコから見た「新世界」 福田 宏(地域研)
15:05~15:20	Coffee Break 
15:20~15:55	ゴリラから読み解くカメルーン: 狩猟と農耕の相関性 大石 高典(総合地球環境学研究所)
15:55~16:30	ポリビアの豊富な資源と「国有化」をめぐるねじれ 岡田 勇(名古屋大学大学院国際開発研究科)
16:30~16:45	Coffee Break 
	コメントおよび総合討論
16:45~17:55	コメンテータ: 栗本英世(大阪大学大学院人間科学研究科) 村上薫(日本貿易振興機構アジア経済研究所)
17:55~18:00	おわりに(貴志 俊彦・地域研 副センター長)
18:30~	懇親会 場所:稲盛財団記念館中会議室(3階・332号室) ※会費制

休憩室では現在地域研が公開している各種データベースのデモを行います。是非お試しください。

問合せ先:共同利用・プロジェクト構想委員会
project@cias.kyoto-u.ac.jp